【東風安生】

■ 『使える弁証法』

田坂広志著 / 東洋経済新報社

「物事は矛盾の止揚により発展する」と筆者は言い、19世紀の哲学者へーゲルの弁証法をわかりやすく解説しています。
世の中に様々な矛盾した関係を、いずれか一方を否定するのでなく両者を肯定し、包含し、統合し、超越する。こうして社会に様々発生する矛盾した点を、止揚（発展的な統一）できるヒントが隠されています。

■ 『まんがでわかる理科系の作文技術』

木下是雄著 / 中央公論新社

新書だったこの本が、作画を加えて『まんがでわかる　理科系の作文技術』として、あらたに出版されました。もとの新書は、昭和50年代半ば（1980年代当初）、文系の大学に通っていた私がゼミ教授から薦められた一冊でした。昭和・平成・令和と学生に読み継がれてきた一冊です。
マンガで再出版されて理解しやすくなっています。卒業論文やレポートなどの執筆に役立ちます。「大事なことは先に書くべし」「事実と意見のすり替えは混乱を呼ぶため避けるべし」「大づかみな説明を示してから細部の記述に入るべし」

薬学部

【池田啓一】

■ 『狂ったサル』

アルバート・セント＝ジェルジ著、国弘正雄訳 / サイマル出版

科学は人類の健康と幸せのために使われるべきものである。

【石川和宏】

■ 『がん消滅の罠　完全寛解の謎』

岩木一麻著 / 宝島社

ミステリーでがん治療を理解する面白さに感動するでしょう。

■ 『勿忘草の咲く町で　安曇野診療記』

夏川草介著 / KADOKAWA

超高齢化医療に挑む若き医療者が日々抱える数々の苦闘に心から感動する物語です。

■ 『蜩ノ記』

葉室麟著 / 祥伝社

人思いの温かい心を培うために。

■ 『糸』

林民夫著 / 幻冬舎文庫

がんで大切な人を失う場面も含まれていますが、人生における巡り会いと別れの神秘性にあらためて感動する内容であると思います。

【井上裕子】

■ 『スマホ脳』

アンデッシュ・ハンセン著、久山葉子訳 / 新潮社

暇さえあればスマホをいじっている人は是非お読み下さい。

【大畠京子】

■ 『生物と無生物のあいだ』

福岡伸一著 / 講談社現代新書

生物をとっていない人でも大丈夫。

【岡田守弘】

■ 『臨床力に差がつく薬学トリビア』

宮川泰宏著 / じほう

「へぇー」と口にしながら膝を叩いてしまう目から鱗が落ちる情報と各領域で陥りがちなピットフォールが明確に指摘されている。本書は会話形式で進められ、エッセーに近い軽快な参考書になっているので、読書が苦手な方にもおススメです。

■ 『薬の名前には意味がある』

阿部和穂著 / 薬事日報社

薬事日報で連載中の人気コラムが書籍化されたものである。薬名の由来を知ることで化学構造や薬理作用などの特徴も関連付けて覚えられ、カタカナだらけの薬の名前が身近に感じられる1冊です。

【鍛治聡】

■ 『週末アジアでちょっと幸せ』

下川裕治著 / 朝日文庫

是非、訪れたいです。ここがいいかな・・・と、コロナ禍を克服しての旅先探しにも面白いです。個人的には、表紙をめくった1枚目の写真がたまらない。

■ 『日本を創った12人』

堺屋太一著 / PHP文庫

選ばれた一人は首相なのですが、吉田茂首相でも田中角栄首相でもない。何でとの思いも読み進めると納得でき、残りの方々も納得です。

【要衛】

■ 『化学者たちの感動の瞬間：興奮に満ちた51の発見物語』

有機合成化学協会編 / 化学同人

「創造の瞬間」有機合成化学の極意を学ぶ。

【亀井敬】

■ 『ひらく、ひらく「バイオの世界」：14歳からの生物工学入門』
日本生物工学会編 / 化学同人

■ 『高校生からのバイオ科学の最前線』
生化学若い研究者の会編 / 日本評論社

2つの本とも少し古いのですが、(4～5年程前)、初学者や文系の方で、生命科学のビジネスなどの応用的なものにも興味を持っている方にとっても読み易く、また、現代人としての教養を身につけるためにも、あまり堅苦しくならずに手に取れそうです。

【川田幸雄】

■ 『世界史を大きく動かした植物』
稲垣栄洋著 / PHP研究所

人と植物のつながりを知ってほしい。

■ 『人の暮らしを変えた植物の化学戦略』
黒柳正典著 / 築地書館

薬の原点を知ってほしい。

【木藤聡一】

■ 『大学で何を学ぶか』
加藤諦三著 / ベストセラーズ

「世間からの評価にとらわれず、自分の人生は自分で切り開いていこう」という希望を与えてくれる本です。

■ 『正しいコピペのすすめ～模倣、創造、著作権と私たち～』
宮武久佳著 / 岩波ジュニア新書

「コピー＝悪」なのか？「許されるコピペ」と「許されないコピペ」の違いは何なのか？コピペ時代におけるコピペの意義を深く考えるための一冊。

【倉島由紀子】

■ 『不死細胞ヒーラ　ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生』
レベッカ・スクルート著、中里京子訳 / 講談社

「科学の恩恵を受けている」私たちは、知っておくべき事実。改めて、「科学」の発展には「影」が付きまとっていることを認識させられます。(DNA二重らせんの発見、しかり)。21世紀となり、倫理観の醸成と共に新たな影は減ってきていると思いたい・・・。

【佐藤安訓】

■ 『毒の科学　身近にある毒から人間がつくりだした化学物質まで』
齋藤勝裕著 / SBクリエイティブ

薬(くすり)はリスク、つまり薬は毒にもなることを体現した本です。なぜ薬剤師が必要なのかわかります。全ページにカラー写真があるのも良い感じ。

■ 『LIFESPAN(ライフスパン):老いなき世界』
デビッド・A・シンクレア著、梶山あゆみ訳 / 東洋経済新報社

古来から権力者が渇望する「不老不死」。不死は現時点でも厳しいが、不老もしくは若返りは夢物語ではないと感じることができる一冊です。

【佐藤友紀】

■ 『ノーベル賞の決闘』
ニコラス・ウェイド著、丸山工作訳 / 同時代ライブラリー

2人の科学者の壮絶な研究競争を描く物語。

【高野　克彦】

■ 『露の身ながら』
多田富雄、柳沢桂子著 / 集英社文庫

著名な科学者でありながら、患者の身でもある2人の往復書簡。タイトルの「露の身ながら」に込められている意味とは。

■ 『四畳半神話大系』
森見登美彦著 / 角川文庫

人生、やり直せたらなー。

【高橋達雄】

■ 『山本五十六』(「新潮日本文学51」収録)
阿川弘之著 / 新潮社

真珠湾攻撃を構想した人間の人物像とは。

【畑友佳子】

■ 『ねこまんが　さいごはおうちで(在宅医たんぽぽ先生物語』

■ 『ねこまんが　おうちに帰ろう(在宅医たんぽぽ先生物語2』

永井康徳著、ミューズワーク(ねこまき)漫画 / 主婦の友社

「生」と「死」を考えるときに。最期をどのように迎えるか。若いうちから様々な人のいろいろな考えに触れておくことがいいと思います。医療系学部学生に限らず、すべての学部学生に読んでもらいたい本です。

■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』

■ 『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー　2』

ブレイディみかこ著 / 新潮社

自分の頭で考え、自分の意見を持ち、行動できる、そんな大人になってほしいと思います。

【光本泰秀】

■ 『復活への底力』

出口治明著 / 講談社現代新書

「運命を受入れ、前向きに生きる」。脳卒中からの復帰を成し遂げたAPU学長の壮絶なリハビリの様子が描かれています。自身の底力を引き出すきっかけに！

【山崎眞津美】

■ 『塩狩峠』

三浦綾子著 / 新潮文庫

実話がベース。人間愛のパワーを感じました。

【劉園英】

■ 『空中ブランコ』

奥田英朗著 / 文藝春秋

とても面白くて、不思議な話！癒しと元気をくれる一冊です。

経済経営学部

【板倉栄一郎】

■ 『二十一世紀の若者論』
小谷敏著 / 世界思想社

日本の現代の若者(=大学生)が学術的にどのように位置付けられるのかを記した興味深い著書。

■ 『本当に日本人は流されやすいのか』
施光恒著 / 角川新書

日本人は主体性が乏しいという言説に対して、日本文化論や戦後の歴史学等、様々な知見を駆使して検証を試みた意欲的な著書。

■ 『「空気」を読んでも従わない』
鴻上尚史著 / 岩波ジュニア新書

「世間論」で得られた知見を拠り所に、「空気」や「雰囲気」、そして「同調圧力」に屈しない方法を筆者独自の切り口で記した挑戦的な著書。

【亀永辰之】

■ 『変わる社会、変わる会計　激動の時代をよむ』
石川純治著 / 日本評論社

国内外の時事を題材にしながら、社会の変化の中に会計学があることを実感できる一冊です。2006年初版本で、扱っているトピックは少々古くなりましたが、現在にも通じるものがあります。

■ 『失敗学のすすめ』
畑村洋太郎著 / 講談社

真の創造は、起こってあたりまえの失敗からスタートする。そうした考えで行動することは、また致命的な失敗を防ぐことにもつながる。「失敗学」の考え方に一度触れてみてはどうでしょうか。自身の行動パターンにも新たな視点が加わると思います。

【川端健司】

■ 『ありがとうの神様』
小林正観著 / ダイヤモンド社

様々な悩みを解決するためのヒントが具体的に示されています。

【熊谷朋子】

■ 『大学で勉強する方法』

A・W・コーンハウザー著、D・M・エナーソン改訂、山口栄一訳 / 玉川大学出版部

1990年代にシカゴ大学の新入生用に作成され全米で読み継がれてきた勉強法のガイドブックです。今でも通用する勉強の仕方が簡潔にまとめられている一冊です。

■ 『生き方　人間として一番大切なこと』

稲盛和夫著 / サンマーク出版

人生で何度も読み返し、長く付き合うことができる一冊。日々さまざまなことに出会い、感性が磨かれ、自分の生き方をじっくり考える時間がある学生時代に一度めの読破をお勧めします。

【曽我晃久】

■ 『自分の中に毒を持て』

岡本太郎著 / 青春出版社

「迷ったら厳しい道の方を選ぶ」、「成功は失敗のもと」など、常識とは相反する著者の強烈なメッセージに魂が揺さぶられます。みなさんの人生の指南書にもなる一冊かと思います。

【張雪瑩】

■ 『社会学的想像力』

C.ライト・ミルズ著、伊奈正人・中村好孝訳 / ちくま文芸文庫

社会を構造として捉え、その中で「自分」という存在がどのような意味を持つのかを考える契機となる内容であり、特にこのアイデンティティを重視する時代において、学生にとって思索を深めるきっかけとなります。

【佃貴弘】

■ 『こども六法』

山崎聡一郎著 / 弘文堂

著者は、刑法などの法律の条文を子ども向けに翻案した冊子を自費出版していました。この本は、いじめ問題に焦点を当てて書籍化したものです。同著者の本として、『こども六法の使い方』というエッセイ、『こども六法練習帳』があります。

■ 『100万回死んだねこ：覚え違いタイトル集』

福井県立図書館編著 / 講談社

思わず笑ってしまうような「うろ覚え」や「覚え違い」が載っています。特に171ページ以降の図書館の「レファレンスサービス」の部分を読めば、みなさんが図書館を使いこなせていないことを感じると思います。図書館を使いこなせるようになるために、一読を薦めます。

【並松信久】

■ 『経済社会の学び方－健全な懐疑の目を養う－』

猪木武徳著 / 中公新書

経済経営学を学ぶ際に、あるいは就職先を選ぶ際に、皆さんが経済社会をどのようにみるかがポイントになります。

【松本和彦】

■ 『権利のための闘争』

イェーリング著 / 岩波文庫他

法・権利の目標は平和であり、そのための手段は闘争である。

【丸山洋三】

■ 『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』

リンダ・グラットン＆アンドリュー・スコット著、池村千秋訳 / 東洋経済新報社

これまでの常識が通用しない100年ライフの時代に突入する中で、新しいシナリオをつくっていこう！　若い世代にこそおすすめの本です。

■ 『その幸運は偶然ではないんです！』

J.D.クランボルツ＆A.S.レヴィン著、花田光世訳 / ダイヤモンド社

常に学び、挑戦し、好奇心を持ち続けることで豊かな人生が送れることを教えてくれた本です。

■ 『会計と経営の七〇〇年史－五つの発明による興奮と狂乱』

田中靖浩著 / ちくま新書

会計って意外と面白い！ことを教えてくれる本です。歴史ドラマ好きの人にもお薦めです。

【南谷直利】

■ 『北の海』上・下巻

井上靖著 / 新潮文庫

「潮とどろく日本海」がイメージされる『北の海』を読破すると、井上の柔道稽古に明け暮れた学生生活の日々が蘇る。

【森田聡】

■ 『7割は課長にさえなれません』

城繁幸著 / PHP新書

終身雇用＝安定は真っ赤なウソということがわかります。企業の実態を知ってください。

■ 『ブラック企業：日本を食いつぶす妖怪』
今野晴貴著 / 文藝春秋

違法な労働条件で若者を働かせ、人格が崩壊するまで使いつぶすブラック企業の現状を知り、就活に役立ててください。

■ 『搾取される若者たち』
阿部真大著 / 集英社新書

若者はなぜ搾取されてしまうのか、この本を通じて何かを感じてください。

国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科

【伊藤梢】
■ 『日本で学ぶ文化人類学』
宮岡真央子他編 / 昭和堂

日本をフィールドとした人類学に興味のある人へ。生まれ育った当たり前を見直すきっかけになります。

■ 『ヒップホップ・モンゴリア：韻がつむぐ人類学』
島村一平著 / 青土社

政治・経済・伝統・エスニックアイデンティティが絡み合うモンゴルのヒップホップシーン研究。

【田中康友】
■ 『ウルカヌスの群像：ブッシュ政権とイラク戦争』
ジェームズ・マン著、渡辺昭夫監訳 / 共同通信社

ジャーナリストのジェームス・マンが、ブッシュ政権の閣僚たちに焦点をあて、なぜアメリカがイラク戦争に突き進んでいったのかを明らかにする。

【二ノ宮聡】
■ 『世界に広がる日本の職人－アジアでうけるサービス』
青山玲二郎著 / ちくま新書

外国語を話せない日本の職人が、世界各地で受け入れられ活躍しています。彼らが海外に行くきっかけや多くの苦労などをインタビューを通じて詳細に描いています。

■ 『信仰の現代中国』
イアン・ジョンソン著、秋元由紀訳 / 白水社

急速な現代化によって中国の人々は様々な利便性を手に入れました。一方で、発展の中で失われていった伝統文化。しかし、いまなお伝統文化を精神的拠り所として現代社会に生きる中国人の姿が紹介されています。

【福江　充】

■ 『文章は接続詞で決まる』
石黒圭著 / 光文社新書

この本をしっかり読んで的確に接続詞を用いると、文章が必ず上手くなります。

■ 『宗教と日本人　葬式仏教からスピリチュアル文化まで』
岡本亮輔著 / 中公新書

この本を読むと、現代日本人社会のなかの宗教が見えてきます。

【福山悠介】

■ 『誤解しないための日韓関係講義』
木村幹著 / PHP新書

文化面では韓国に関心があるけど、政治面ではなぜ関係が悪いのだろう…という想いを持つ学生も多いでしょう。本書はデータに基づいて、日韓関係の様々な疑問に回答してくれます。

■ 『二つのコリア』
ドン・オーバードファー＆ロバート・カーリン著、菱木一美訳 / 共同通信社

アメリカのジャーナリストと米国の外交官が共著で描く、国際社会における朝鮮半島の現代史。北朝鮮がなぜ今の体制なのか、なぜ核を開発するのか。朝鮮半島に関する疑問が氷解する一冊です。

【村田和弘】

■ 『中国小説集』
中島敦著 / 講談社文庫

近代日本人の承認されない自我の悩みを、虎に変身した男が語り、沙悟浄が追及する小説集。

■ 『中国語はじめの一歩』
木村英樹著 / 筑摩書房

読み手の言語センスが問われる一冊。

国際コミュニケーション学部心理社会学科

【小島弥生】
■ 『ソーシャルメディア論　改訂版』
藤代裕之著 / 青弓社

今の若い人たちが使っているSNSに関する、社会学や情報学の先生方がまとめている書籍で、アプリの話も含まれている。

■ 『なぜ人は他者が気になるのか？人間関係の心理』
永房典之著 / 金子書房

自信の持てない若い方に読んでほしい。

医療保健学部医療技術学科

【佐藤妃映】
■ 『二十歳の原点　新装版』
■ 『二十歳の原点序章　新装版』
高野悦子著 / カンゼン

自分が根底から揺さぶられる本です。

■ 『神谷美恵子日記』
神谷美恵子著 / 角川文庫

ハンセン病療養所で患者に献身した、精神科医である著者の日記です。自分自身を見つめ直すきっかけになると思います。

■ 『苦海浄土』
石牟礼道子著 / 講談社文庫

「水俣病」の受難史としてだけでなく「馥郁たる魂の香り」に触れて、様々なことを感じてほしいと思います。

【周尾卓也】
■ 『生きていくあなたへ　105歳どうしても遺したかった言葉』
日野原重明著 / 幻冬舎

生活する勇気を与えてもらえる。

■ 『生涯最高の失敗』
田中耕一著 / 朝日新聞社

勉強する勇気を与えてもらえる。

【關谷暁子】
■ 『人間らしくヘンテコでいい』
鎌田實著 / 集英社

「ひとにうまれて、よかったな」そう思える一冊です。

■ 『サイレント・ブレス』
南杏子著 / 幻冬舎

「人生の最期に寄り添う医療」について考えるきっかけに。

【滝野豊】
■ 『救命センター　カルテの向こう側』
浜辺祐一著 / 集英社

医療人を目指す学生は心に刺さるはず。医療制度が抱える問題も知ることができる。

■ 『大学生のためのメンタルヘルスガイド：悩む人、助けたい人、知りたい人へ』
松本俊彦著 / 大月書店

大学生になって新しくできた友達から対人関係、恋愛、性、薬物の相談を受けた時、きっと役立つ本です。

【油野友二】
■ 『人生は服、次第』
政近準子著 / 宝島社

ノンバーバルコミュニケーションとして理系・文系問わず学生・社会生活の一つのヒントがあります。一読の価値あり。

医療保健学部理学療法学科

【岡山　裕美】
■ 『コンサル時代に教わった仕事ができる人の当たり前』
西原亮著 / ダイヤモンド社

社会人になる前に読んでおきたい一冊！学生時代にも活かされることが書かれています。

■ 『心理的安全性のつくりかた』
石井遼介著 / 日本能率協会マネジメントセンター

心理的柔軟なリーダーシップを育む本です。

■ 『幸せなチームが結果を出す　ウェルビーイング・マネジメント7か条』
及川美紀、前野マドカ著 / 日経BP

素敵なチームを作る参考に！

【大工谷新一】
■ 『選択の科学』
シーナ・アイエンガー著、櫻井祐子訳 / 文藝春秋

人間はどのように意思決定をするのか、選択する方法は人によってどのように違うのか、どのように選択すればいいか。

■ 『THINK AGAIN　発想を変える、思い込みを手放す』
アダム・グラント著、楠木建訳 / 三笠書房

知っているつもりと思い込み、勝手な確信という安心感。

国際交流センター・留学生別科

【大谷鉄平】
■ 『煩悩の文法』
定延利之著 / ちくま新書

みなさんが使っている「日本語」が、教えられた「国語」の文法を超えているのではないか、という気付きが得られます。あらためて、日本語を考えたいみなさんへのオススメ。

【横田隆志】
■ 『ぼんやりの時間』
辰濃和男著 / 岩波新書

「忙しい」と感じたら、この本を読んで充実した「ぼんやりする時間」を過ごしてください。

【佐々木技好】
■ 『7つの習慣ティーンズ』
ショーン・コヴィー著、フランクリン・コヴィー・ジャパン編 / キングベアー出版

よりよい人生を歩く7つの習慣を学ぼう。

高等教育推進センター

【杉森公一】

■ 『宙わたる教室』

伊予原新著 / 文藝春秋

「火星の夕焼けは青い」・・・定時制高校の科学部が取り組む実験は、思いもよらない展開に！最後まで目が離せない青春科学小説。反響を呼び、2024年NHK総合でドラマ化。著者は、2025年には『藍を継ぐ海』で直木賞受賞した地球惑星物理学者。

■ 『理系の子：高校生科学オリンピックの青春』

ジュディ・ダットン著、横山啓明訳 / 文藝春秋

全てのこどもたちが、科学の芽を息吹かせる可能性を持っている。11人の高校生たちの発見とセレンディピティ(奇跡)の物語。

■ 『ROBOT-PROOF：AI時代の大学教育』

ジョセフ・アウン著、杉森公一ら共訳 / 森北出版

本書は2017年にMIT pressから出版されたが、AIの登場で大学教育と生涯学習が大きく変わることを予見した。技術リテラシー、データリテラシー、ヒューマンリテラシーを身につけるための、新しい大学教育の在り方は一読の価値がある。近年では、2023年東京大学入学式の総長式辞で紹介され、日経紙面でも連載特集が組まれている。

【中村義治】

■ 『スピノザの診察室』

夏川草介著 / 水鈴社

医療従事者として働こうとしている人は、ぜひご一読を。その心構えが浸み込むようにできあがるでしょう。ゆっくりと、じんわりと、そしてしっかりと。

図書館

■ 『人生に悩んだら「日本史」に聞こう　幸せの種は歴史の中にある』
白駒妃登美著 / 祥伝社

歴史上の人物の感動的なエピソードに触れることができます。

■ 『日本、遥かなり　エルトゥールルの「奇跡」と邦人救出の「迷走」』
門田隆将著 / PHP研究所

イラン・イラク戦争でトルコが日本人を救ってくれた理由を知って欲しい。

■ 『ノーサイドゲーム』
池井戸潤著 / ダイヤモンド社

企業スポーツの経営や組織論、スポーツを通じて顧客や地域に与える影響力と経営の難しさの両面を学べます。また、スポーツの魅力やチームで困難に立ち向かっていく姿に熱い気持ちを感じられる本です。

■ 『世界をつくった6つの革命の物語　新・人類進化史』
スティーブン・ジョンソン著、大田直子訳 / 朝日文庫

「ガラス」「冷たさ」「音」「清潔」「時間」「光」、現代社会に大きな影響を与えた6つのイノベーションの物語。読みやすさ・おもしろさ・新たな視点、の3つが揃った教養書です。

■ 『「好き」を言語化する技術』
三宅香帆著 / ディスカヴァー・トゥエンティワン

自分の考えや気持ちを自分の言葉で語るスキルは、SNSにだけでなく、就活にも学業にも応用できます。

■ 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』
■ 『1日1話、読めば心が熱くなる365人の生き方の教科書』
藤尾秀昭編 / 致知出版社

著名人の仕事や生き方に対する姿勢は、そのまま人生の教訓になります。

■ 『金の角持つ子どもたち』
藤岡陽子著 / 集英社文庫

中学受験を目指す主人公のひたむきな姿勢に感銘を受けます。各種国家試験を目指す学生に特におすすめです。

■ 『それからはスープのことばかり考えて暮らした』
吉田篤弘著 / 暮しの手帖社

ゆったりと時間が流れる何気ない日常が、とてもいとおしく感じられます。